

第19回

人権ショートレター 入賞作品 発表



小・中学生の部

最優秀賞 「傍観者でいいのか」

傍観者でいいのか。いじめられているのを見ているだけでいいのか。勇気を出して言ってみたらそれだけで助かるかもしれない。いじめてた人も謝るかもしれない。いじめも収まるかもしれない。勇気を出して言おう。

優秀賞 「性別なんて関係ない」

「男のくせに」とか「女の子なのに」という人がいるけれど、その人にはその人の好きな事、やりたい事があると思う。それはその人のかってだ、困りが言える事ではない。好きや、やりたい事に性別なんて関係ない。

優秀賞 「身近で感じた人種差別」

私が電車に乗っていると、黒人男性が乗ってきた。そして、若い女性の隣に座った。すると女性はチラリと男性を見て、席を立った。男性は悔しそうな顔で手を強く握りうつむいていた。私の心が、チクリと痛んだ。

優秀賞 「コロナ差別」

今、新型コロナウイルスの感染拡大により、感染者や医療従事者などへの差別が深刻化しています。感染したくない、誰しもそう思います。しかし、私は差別ではなくエールを送り、共にこの危機に立ち向かっていきたい。

佳作

「誰かの普通、自分の普通」
「言葉」
「何気ない一言が…」
「大切な言葉」
「ぎゃくたい」

高校・一般の部

人間らしく生きること、差別や偏見に対して感じたこと、お互いの個性を認め合うことなど、「人権」を大切にする気持ちを手紙に…。全国から2,007通の応募がありました。入賞作品を紹介します。

今年は、人権フェアが中止だったため、作品紹介を市公式Youtubeで公開しています。(佳作はタイトルのみ)

問合せ＝人権施策推進課(内線334)

最優秀賞 「未来は明るい」

ヘルプマークを忘れたあの日。混雑する電車の中。具合が悪そうな私を見て、声を掛けて席を譲ってくれたのは、ランドセルを背負った女の子だった。君のような子どもがいる、この国の未来はきっと明るい。

優秀賞 「わかろうとしてくれてありがとう」

私の障害の全てを理解しようとしなくていいのだよ。ただ真剣にわかろうとしてくれたその気持ちが本当に嬉しかった。世の中みんなあなたみたいな人だったら、優しい世界になるだろうな。幸せな世界になるだろうな。

優秀賞 「孫へ」

孫が一人で登校するようになった。ダンスの授業で、バイ菌と呼ばれる子と手を繋いだのが理由らしい。心配を察したのか「みんなと一緒にいじめたら、私は自分を嫌いになる」とVサインを見せる勇気が誇らしい。

優秀賞 「母の一言」

「自分がされて嫌なことは人にしないよね。」私が母に言われたことは、この一言くらいです。世界中の誰もがこの言葉を知って大きくなってほしいと思います。

佳作

「願い」
「君の目は」
「好きな服を着て生きる」
「心をつなごう」
「父の思い」